

ペットを守る 災害対策

突然起こる自然災害。

ペットを守ることができるのは、飼い主です。

飼い主がペットとともに災害を乗り越えるためには
日頃からの心構えと備えが必要です。

あなたへ

ペットの安全を中心に
お話ししますが、飼い主の
あなたの安全が大前提で
す。あなたが無事である
ことが、ペットの安全に
も繋がります。



🐾 ペットの安全確保は飼い主の責任です

■ 同行避難が推奨されています ■

災害発生時、飼い主がペットを同行し避難所まで安全に避難する「同行避難」が推奨されています。ペットを連れて避難所に行くのは迷惑では、と思う必要はありません。同行避難はペットを守ると同時に、二次災害や災害関連死から人命を守るためでもあるのです。

■ 人とペットの避難スペースは別 ■

徳島市では、盲導犬などを除いて、ペットは飼い主と同じ居住スペースに持ち込めません。学校のグラウンドの一角など、屋外に動物の避難スペースが確保されます。また、ほとんどの避難先では、犬や猫はケージでの生活が中心となります。



ペットの安全の確保は？
避難所でのストレス対策は？

🐾 ペットの避難用品等チェックリスト 🐾

優先順位1 命や健康に関わるもの

- 療養食、薬（必要なペットには必ず用意）
- ペットフード、水（一週間分以上）
- キャリーバッグやケージ
- 予備の首輪、リード（伸びないもの）
- ペットシート
- 排泄物の処理用具
- トイレ用品
（猫の場合は使い慣れた猫砂または使用済猫砂の一部）
- 食器



優先順位2 情報

- 飼い主の連絡先と、
ペットに関する飼い主以外の
緊急連絡先・預け先の情報
- ペットの写真
- ワクチン接種、既往症、
投薬中の薬情報など



優先順位3 ペット用品

- タオル、ブラシ
- ウェットタオルや洗浄綿
- ビニール袋（多用途に利用できる）
- お気に入りのおもちゃ
- 洗濯ネット
（診察時の猫の逃げ出し防止など）
- ガムテープやマジック



🐾 読んでみよう！

環境省のホームページでは、飼い主とペットのための、より詳しい災害対策ガイドが公開されています。読んで災害への対策をさらに深める参考にしてみましよう。



災害、あなたとペットは大丈夫？
人とペットの災害対策ガイドライン〈一般飼い主編〉



人とペットの災害対策ガイドライン

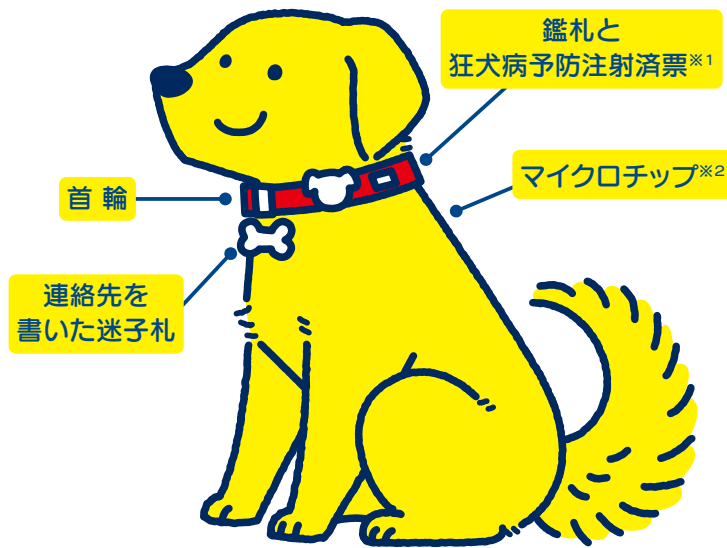


ペットも守ろう！防災対策(パンフレット)

ペットが行方不明にならないために

やむを得ずペットを残して避難したり、ペットとはぐれてしまった場合にも、飼い主のもとに戻れるよう、所有者を明示しておきましょう。

犬の場合



※1 飼い犬は狂犬病予防法により鑑札の装着、年一回の狂犬病予防注射をした証明の注射済票の装着が義務づけられています。

※2 挿入したら必ず（公社）日本獣医師会などに飼い主情報や動物情報を登録すること

猫の場合



※1 ひっかかり防止の外れやすいタイプを使っている場合はマイクロチップの利用を強くお勧めします。

※2 挿入したら必ず（公社）日本獣医師会などに飼い主情報や動物情報を登録すること

避難情報、ルートの確認など

ペットと一緒に避難訓練を

徳島市ホームページや防災マップ等で災害時の避難所の所在地、ルートを確認し、実際にペットを連れて避難所へいく訓練をしましょう。

- 所要時間のチェック
- 危険箇所の把握
- 迂回ルートの確認

など



家族や地域での話し合い

ペットを連れて避難する方法など、万が一の時に助け合えるよう、飼い主同士や近隣住民と防災について話し合っておきましょう。



避難所以外の預け先を

指定避難所など以外にも、親戚や友人など、複数の一時預け先を探しておきましょう。

ペットの安全確保、避難所でのトラブルを生まないための配慮など、災害時の飼い主の役割は多岐にわたります。災害に対する十分な備えと、飼い主としての責任を果たす心構えを持ちましょう。

しつけと健康管理

基本的なしつけ

犬の場合

- 「待て」「おいで」「おすわり」「伏せ」等
- 不必要に吠えない
- 人や他の動物を怖がったり攻撃的にならないようにならす
- 決められた場所での排泄



猫の場合

- 人や他の動物を怖がらないようにならす
- 決められた場所での排泄
- できるかぎり室内で飼う
(災害時行方不明になるのを防ぐ)

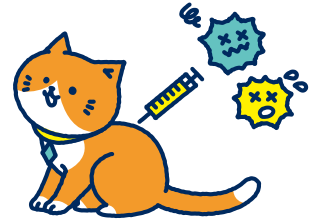
日頃の健康管理

犬の場合

- 狂犬病予防接種（義務）
- 各種ワクチンの接種
- 犬フィラリアやノミ・ダニなどの寄生虫予防、駆除
- シャンプーやトリミングで身体を清潔に保つ
- 必要に応じて不妊去勢措置

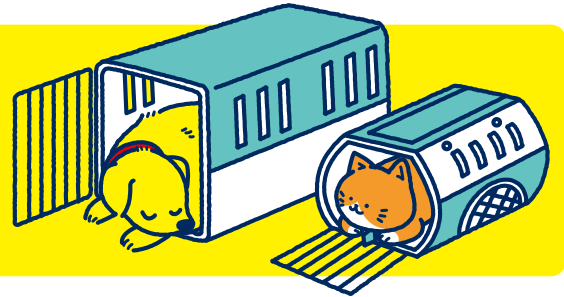
猫の場合

- 各種ワクチン接種
- 寄生虫の駆除
- 必要に応じて不妊去勢措置



ケージやキャリーバッグに慣らす訓練を

ケージやキャリーバッグを「安心できる場所」にしておくことで、災害発生時の逃げ場になり、また、避難所生活でのペットにかかるストレスを軽減させることができます。



ペットのケガを防ぐ住まいの災害対策



家具の転倒、床に散らばったガラスなどでペットがケガをしないよう、住まいや飼養場所の防災対策を行いましょう。

- 家具やケージの固定、転倒防止、落下防止
- ガラスの飛散防止
- 屋外飼養の場合、飼養場所の安全を確認
(外塀やガラス窓の近くを避ける)



ペット用の備蓄品と避難用品の確保



ペットの食料やペット用品を用意するのは飼い主の責任です。避難場所へ移動するためのリードやキャリーバッグ、救援物資が届くまでの食べ慣れた食料（一週間分以上）など、避難セットを準備しておきましょう。

※最後のページにチェックリストがあります。